

三島高校・川之江高校のW出場
EXILE TAKAHIRO さんの特別審査員
鳥取城北高校の2連覇達成・・・
大成功を収めた第17回大会。

その華やかな舞台の裏では、300人も
のスタッフが与えられた使命を果たす
べく、会場内を奔走していた。
今回は、その中から4人に集まってい
ただき、大会の裏側を語ってもらった。

裏方より愛をこめて



ケーブルテレビ
西村静夏さん

高校生運営チーム
河村紅愛さん

一般ボランティア
飯尾彩乃さん

大会事務局
徳重朝美さん



徳重朝美さん

福岡県出身
2022年 八幡中央高校書道部で本戦出場。
本年4月 四国中央市役所入庁。書道パフォーマンス甲子園振興室に配属。

飯尾彩乃さん

松山東高校3年
同校書道部前部長
三島高校書道部を優勝に導いた指導者に師事するため同校に進学。
2023年 本戦出場を果たす。



河村紅愛さん

土居高校2年
高校生運営チーム SHiPs 選手歓迎班
当日はプラカードのほか、会場外で抽選会も担当し、来場者をもてなした。

西村静夏さん

兵庫県出身
2023年(株)四国中央テレビ入社。同年から放送スタッフとして書道パフォーマンス甲子園に参加。
学生時代はラクロス部。



7月末から岐阜県で開催された全国高等学校総合文化祭に出場した飯尾さん(左)。今大会と一緒に墨拭き係をした岐阜県立加納高校の岩丸優太君が応援に駆け付けてくれた。



自己紹介

徳重朝美です。八幡中央高校書道部のOGで、2年前の15回大会に出場しました。4月に四国中央市役所に入庁し、大会当日は「計測係」として、各校が演技する前の準備時間を計測していました。

飯尾彩乃です。この夏まで松山東高校書道部で部長を務めていました。昨年の16回大会に出場した時に見たスタッフのみなさんの動きに感銘を受け、それをテーマにした作品で今大会に挑みました。残念ながら予選を突破できず、自分たちが会場で輝くことは叶いませんでしたが、会場をピカピカにして輝かせたいと思い、一般ボランティアに応募しました。願いが叶って、当日は演技後に床を拭く「墨拭き係」をさせていただきました。**河村紅愛**です。土居高校の2年生で、昨年から高校生運営チーム SHiPs として大会に関わらせてもらっています。当日は鳥取城北高校の「プラカード係」として、一番近くで2連覇を見届けました。

西村静夏です。四国中央テレビ入社2年目の放送スタッフです。当日は、会場の後方で入場前の選手たちの様子を撮影したり、入賞者にインタビューしたりしていました。特別審査員の TAKAHIRO さんにもインタビューしました！

私を変えた書道パフォーマンス甲子園

徳重 こんな大きな大会を市が運営していると知り、四国中央市を受験しました。事務局の一員となった今、選手としての経験を活かして、大会の発展に貢献していきたいです。

飯尾 中学2年生の私が文集に書いた夢は、「書道パフォーマンス甲子園に出場する」でした。その夢は昨年叶いましたし、今年もボランティアとして大会に参加することもできました。普通に書道をしていたら関わることなかっただけで、このつながりのおかげで、県外に友達ができたりもしました。これからも書道を通じていきたいです。

私が見た17回大会

西村 本戦出場経験のある2人は、今回スタッフとしてどんな思いで大会を見ていましたか？
飯尾 私は「墨を拭く」という強い思いで松山から来ているので(笑)、選手の動きや墨の飛び方を見て、一番汚れている所に狙いを定めて拭きに行っていました。飛び散った墨や絵の具を拭きながら、何が混ぜられているのか確かめていました。

徳重 演技前の準備時間は2分と決められていて、オーバーするとその後の審査に影響があります。私も選手時代に経験しているのですが、2分という時間のシビアさをよく知っています。ある高校の選手が絡まった電源コードを必死にほどいている姿を見た時は、「間に合え！」と祈りながら計測器の表示を見つけていました。



演技前の準備時間を計測する徳重さん。規定時間を超過した分が演技時間に加算され、演技時間が6分を超過した場合、罰則の対象となる

西村 やっぱ感情移入しちゃうんですね。選手を、しかも優勝校を近くで見れていた河村さんはどうでしたか？

河村 昨年、学校に事務局の方がボランティアの勧誘に来てくれたのですが、その時見せてくれた写真に、楽しそうに活動する先輩たちが写っていて、私もやりたいと思いました。もちろん来年もやります！活躍の機会があれば良いな。

西村 大会が開催される7月は、夏祭りの取材などでとても忙しい時期です。でも、書道パフォーマンス甲子園に参加するとエネルギーが貰えます。「この夏も頑張ろう！」と思える1日なんです。今から来年の夏が楽しみです。



リハーサル中のひとこま。初めて参加した時は、筆を持たず動きの確認をする選手を見ただけで涙が出たと話す西村さん(右)

もっともっと書道パフォーマンス甲子園

西村 TAKAHIRO さんにインタビューさせていただきましたが、書に対する造詣の深さや思いが凄かったです。大会後にも、インスタグラムに直筆の書とメッセージを投稿してくれたり、オンデマンド配信を紹介してくれたり、書道パフォーマンス甲子園を広めようとしてくれたことが嬉しかったです。

河村 開会式の前に、鳥取城北高校の小林愛音部長が話し掛けてくれたことがきっかけで、選手のみなさんと仲良くなりました。演技前には、愛音さんが「紅愛ちゃんを泣かせられたら私たちの勝ちね」と言ってくれました。

西村 泣いた？
河村 泣きました。表彰式ではプラカード係も選手と一緒に壇上にかかるのですが、泣きながらプラカードを抱えてました。表彰式が終わって退場した後に愛音さんが「本当にありがとう」と言ってくれて嬉しかったです。



優勝した鳥取城北高校との記念写真。河村さん(前列中央)の右隣が部長の小林愛音さん。河村さんが掛けているメダルは愛音さんのもの

西村 私は入場シーンの撮影担当だったので、演技を前にした選手たちのいろんな表情を見ました。めちゃくちゃ緊張していても、いざ入場となると瞬間に笑顔に変わる選手、アクシデントをフォローし合う選手たち、その一つひとつに感動していました。中でも一番印象的だったのは鳥取城北高校です。この大舞台を楽しんでいることが伝わってきました。

影響力がある人もそうでない人もSNSで発信することで、全国から四国中央市に人が集まれば良いなと思います。



Instagramに投稿されたTAKAHIROさんの書

河村 今回 SHiPs をさせていただいて、もっと書道パフォーマンス甲子園を広めたいと思うようになりました。でも、学校では習字ぐらいでしか筆を持つことがありません。学生の間に一度は書道パフォーマンスをする機会があれば良いなと思います。

飯尾 書道人口が減ってきていると感じています。これからは「集団美」とは別に「MVP」のような個人に注目する賞があるように思います。先日出場した「総文祭」には、作品の感想を書いて投函すると、その生徒の学校に届けてくれるというポストがありました。選手同士が評価し合うのもレベルアップにつながると思います。

徳重 素敵なお意見ありがとうございます。事務局として、もっとも書道パフォーマンス甲子園を磨き上げて、より多くの人に共鳴してもらえるような大会にしていきたいと思っています。